根城中

主体的に学ぶ生徒の育成

～課題設定の工夫と振り返りを通して～

（3 年計画の 3 年次）

校長　　竹　花　和　人

１　研究主題について

本校では、主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、「課題設定」と「振り返り」について、新学習指導要領に沿っての研究を進めてきており、具体的な研究目標を、①問題解決的な授業づくりのための「課題設定」、②メタ認知能力を働かせた「振り返り」とその活用であるとした。

今年度は特に、研究目標②を中心に研究し、「振り返り」をさせるだけではなく、「振り返り」によって得た気づきや、浮き彫りになった自身の課題を次の授業へと生かし、学びを深めていくことをゴールに研修を進めた。また、教師同士も主体的・対話的に学び合える風土を大事にし、教員間でその手法や生かし方を共有することで、継続的・効果的に「振り返り」とその活用を実践していくことができ、主体的な生徒の育成へとつながると考えた。

２　研究のねらい

主体的に学ぶ生徒を育成するために、課題設定と振り返りの場面を工夫して授業実践を行う。

３　研究仮説

問題解決的な課題設定と、生徒の振り返りを次の授業につなげさせる働きかけを工夫することで、生徒のメタ認知能力が高まり、主体的に学ぶ生徒を育てることができると考える。

４　研究内容

(1)　「課題設定」と「振り返り」の工夫

ア　「思考のズレ」を生み出し、生徒自ら「問題発見」につながるような「しかけ」作りを考え、実践する。

イ　生徒のメタ認知能力を高めるための「振り返り」のさせ方と、「振り返り」そのものを以下の３つの視点で考え、実践する。

・生徒の学びの質の向上につながる
・生徒の実生活における活用につながる
・教師による生徒の見取りと次の学習課題の設定につながる

ウ　実践したことを教員同士で対話を通して共有し、互いの取組を振り返り今後の実践に生かす。

(2)　その他の研修

ア　教師の意識を変える命最優先研修
市民病院の今明秀医師を招いて、学校現場における救急事例の紹介とそれぞれの事例において取られた具体的対応について講義してもらい、生徒の命を守るための予備知識やスキルを学ぶ。

イ　ファシリテーション研修
長崎純心大学の水畑順作氏を招いて、生徒の主体性を引き出すためのファシリテーションスキルを学ぶ。

ウ　心のケア研修支援事業
八戸学院大学短期大学部幼児保育科の野口和也教授より、支援等が必要な生徒の実態把握と適切な手立てや対応等について学ぶ。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要等
5	31	対話の会 「振り返り共有会 　～振り返りの生かし方・引き出し方・つなげ方～」
8	28	教育指導課　計画訪問 校内研修　要請訪問　技術科
1	11	今年度の校内研究のまとめと振り返り

(2) 一般研修

月	日	内容等
7	26	「教師の意識を変える命最優先研修」　講師：八戸市民病院事業管理者　今明秀氏 　ＡＥＤを用いた救急救命法の演習と、学校現場での救急要請の事例についての講演を通して、自分事として救命に関わることの大切さを学ぶことができた。
8	21	「ファシリテーション研修」　講師：長崎純心大学　水畑順作氏 　主体的・対話的で深い学びの実現させるための「振り返り」で大切なことは、真の要因に迫り本音を引き出すことであり、そのためのファシリテーションスキルを学ぶことができた。
12	14	「心のケア研修支援事業」　講師：八戸学院大学短期大学部幼児保育科 教授　野口 和也氏 　支援等が必要な生徒の授業参観、参観後の情報交換会の中で、適切な手立てや対応等について指導助言をいただき、研修を深めた。

６　研究の成果

(1)「振り返り」における成果

・大分県教育センター作成の『「振り返り」の充実に向けて』における１３の視点を全教員で共有し、参考にしたことで、各授業者が「振り返り」の目的・ねらいを明確にして授業に臨むようになった。その継続により、見通しをもって授業を組み立てること、発問の質の向上、より深い生徒の実態把握へとつながった。

・「振り返り」によって、自身の成長や学習の取組状況等を客観的に分析する視点が生徒の中に育ってきたため、次の学びへの新たな目標やビジョン、意欲をもつことにつながり、学習における望ましい循環が生まれた。また、「振り返り」によって生徒自身の自己理解が進み、学習を進める上での自己調整へと役立っている。

(2)「課題設定」における成果

・生徒の疑問点を吸い上げて課題に設定する、結果の予想から入る、二択三択による立場表明をしてから結果を確かめる学習に入る等、「思考のズレ」を取り入れた「課題設定の工夫」を各教科の特性を生かして実践することができた。

７　研究の課題

(1)今年度「振り返り」を中心に研究した中で、生徒の「振り返り」の内容から、学びが自分事になっていないことが見受けられるケースがあり、教師から与えられた課題ではなく、様々な仕掛けによって生徒に切実感・必要感をもたせるような課題設定がなされるからこそ、主体的な学びにつながると改めて認識した。

(2)今年度の取組（課題設定の工夫と振り返りを意識した授業づくり）を進めていく中で、本校生徒の「学ぶ意欲」や「学びに向かう態度」に課題があることが浮き彫りになった。それらを改善し、「深い学び」を実現するために、「対話」をどう活用していくかが来年度の課題である。

（記入者　豊川　志麻）